

## II-2 教育研究・教材開発への支援

### 【教育研究への支援】

#### 1 学校園への支援

校園内における様々な研修や研究は、教職員の資質・能力の向上には欠かせないものである。当センターでは、ライフステージや職能、教育課題等を体系化して実施している。

教職員個人の課題解決や資質・能力の向上を目指して実施する校園外研修に対して、校園内研修は、学校園の実態や課題に即して教育目標を立て、教職員に共有化された目標を基に取り組むべき課題を明確にして行うものである。

当センターでは、校園内で実施される研修や研究を支援するため、本年度、学校園支援事業を以下のとおり展開した。

#### (1) スペシャリスト派遣事業

学校園からの要請に応じて、高い技術をもつ教員や先進的な授業研究を行っている研究者を派遣して、校園内研修の活性化を図るために実施している事業である。本年度の派遣状況は以下のとおりである

【「スペシャリスト派遣」実施状況(講師の職種別)】

	大学教員	校園長・教諭	教諭	その他	実施数	校園数
幼稚園	3	5	5	3	16	14
小学校	26	4	1	12	43	35
中学校	9	0	0	8	17	14
義務教育学校	2	0	0	0	2	1
高等学校	0	0	0	0	0	0
特別支援学校	2	0	0	0	2	1
計	42	9	6	23	80	65

※校園長・教頭には元職も含む

※教諭には主幹教諭・栄養教諭・養護教諭も含む

【「スペシャリスト派遣」実施状況(研修内容別)】

	教科	保育	道徳・人権	特別支援	その他	実施数
幼稚園	0	12	0	4	0	16
小学校	20	0	23	0	0	43
中学校	2	0	14	1	0	17
義務教育学校	2	0	0	0	0	2
高等学校	0	0	0	0	0	0
特別支援学校	0	0	0	0	2	2
計	24	12	37	5	2	80

※教科は国語・社会・算数・音楽

※その他は学級経営・生徒指導・授業づくり等

#### (2) 授業力向上プラン推進校

本市と兵庫教育大学との連携協定に基づき、大学の教員を各学校園に派遣し、「わかる授業づくり」に向けて指導・助言を行うことで、教職員の資質・能力の向上を図る取組を推進している。

4月当初に推進校を募集し、原則2年間、下記の6つの特定課題について継続した研究を進め、その間に兵庫教育大学の教員から研究に関する指導を受けることができることとなっている。

#### 【課題研究の内容(連携協力事項)】

- ① 学力調査及び生活調査
- ② 校園内研修の充実
- ③ 授業改善の具体的方法
- ④ 小中一貫教育、校種間連携の推進と充実
- ⑤ 兵庫教育大学大学院及び学部における教育研究
- ⑥ 両者が協議して必要と認める事項

なお、本年度の派遣状況は次のとおりである。

#### 【授業力向上プラン推進校(H30~R1年度)】

荒川小	多様性を受け入れ、学ぶ喜びを味わえる子の育成
	9/30 10/24 1/23 実施

英賀保小	自分の考えを伝え合い、互いに伸びようとする英賀保っ子の育成
	8/6 8/7 11/14 実施
別所小	学び合い、深め合う、確かな実践力を育む家庭科教育
	7/1 11/1 実施
広嶺中	人間関係力を培い心豊かな生徒を育む
	6/19 7/1 11/15 1/27 実施
山陽中	生徒・教師ともに伝える力、聴く力の向上を目指す
	6/18 8/26 10/10 1/27 実施

	育成
	外部講師招聘 3回
	先進地視察 5回

### 【教育実践研究助成(R1~R3年度)】

安室東小	自然とひたむきに向き合い、感動する人間性を涵養する
	外部講師招聘 3回 先進地視察 3回
飾磨幼	主体的・対話的で深い学びを考える
	外部講師招聘 2回 先進地視察 5回

### (3)教育実践研究助成

「魅力ある学校園づくり」や「特色ある教育活動」を促進するための、学校園、校園内グループまたは教職員の実践研究について、年間30万円または年間10万円を3年間継続して助成している。なお、本年度の内容は次のとおりである。

#### 【教育実践研究助成(H29~R1年度)】

飾磨西中	道徳教育を基盤とした安全安心の学校の創造
	外部講師招聘 5回
城東小	夢をもち、自ら学び、高め合う子の育成
	外部講師招聘 1回
広畑第二幼	伝え合う喜びを味わう幼児の育成
	外部講師招聘 2回 先進地視察 3回

#### 【教育実践研究助成(H30~R2年度)】

白鷺小中	探究し続ける児童生徒の育成
	外部講師招聘 4回
	先進地視察 7回
東小	前向きに伝え合い、新たな価値を創造する子を育てる
	外部講師招聘 1回
	先進地視察 1回
糸引幼	心豊かで思いやりのある幼児の

いずれの学校園もそれぞれがもっている課題に対してテーマを設定し、3年間の研究の方向性をしっかりと見据え、大学教授等外部講師を活用したり、先進地の視察や授業研究を行ったりするなど、独自の研究に取り組むことができていた。

今後も教職員の研究意欲を高める支援として、学校園の研究活動の活性化を図りたい。

## 2 カリキュラム・教材開発への支援

「わかる授業」「そだつ保育」を推進・支援するため、教材開発に必要な機器を揃えるとともに、整備や最新の教育情報資料の収集や提供に努めている。

### (1)教育図書・資料室

教育に関する図書・資料を中心に収集・開架している。定期刊行物では、各教科、道徳、特別支援教育、生徒指導、学校給食、心理学、学校事務、幼児教育等多方面の雑誌を取り揃えている。各種書籍、資料は、教職員だけでなく、市民にも閲覧、貸出できるようにしている。特に、新書や研修で話題となった書籍は、「特集コーナー」を設け開架しているので、来館者の目にもとまりやすいと考える。

また、学習指導案の収集にも努めている。学校園から研究授業等の指導案を収集し、本市のポータルサイトで閲覧できるようにし、

日常の授業や実践に生かせるようにしている。この指導案収集に加え、「わかる授業づくり」において重要な要素となる授業中の「板書」の写真も収集することでさらなる教育研究環境の充実を図っている。

さらに、教育図書・資料室は中播磨教科書センターとしての機能を併せ持ち、小・中・義・特別支援・高等学校の検定済み教科用図書（以下、「教科書」という。）を開架している。小・中・義務教育学校に関しては、過去の教科書も保管しており、要望があれば公開している。本市で採用していない教科書も全て揃えており、教材作りや授業研究の貴重な資料になっている。

#### 【蔵書・資料数】(R1 3月末現在)

教育図書	約 8,281 冊
研究紀要（閲覧用）	約 1,284 点
学習指導案	約 4,753 点

#### 【教育図書・資料室利用実績】(R1 3月末現在)

利用者数	3,336 人
貸出数	463 冊

### (2) 教材開発室

教材開発室にはパソコン、長尺プリンタ、スキャナ等を置いて、教材や資料を作成できる環境を整えている。約 90cm 幅の印刷ができる長尺プリンタを活用することにより多くの方々のニーズに応えることができた。また、教材開発室には様々な映像媒体の編集機器を設置しており、記録媒体の変換や、動画の編集等を行うことができるようにしている。

### (3) 視聴覚ライブラリー

視聴覚ライブラリーには、教育用ビデオや DVD ソフトを常時開架し、視聴のための機器を備えることで、開館中は市民・教職員が自由に利用できるようにしている。教育関係諸団体には、機材やソフトの貸出も行っている。教育図書同様、喫緊の教育課題に関する内容をはじめ、教科の専門性に関する資料も

随時購入している。

### (4) ビオトープ

当センターは小学校の跡地を利用して開設しており、既存施設を改修して活用している。プール跡に造られたビオトープは、水辺の自然生態系のモデルとして、身近な動植物を生息させ、理科・環境教育の研修活動で利用したり、理科・生活科の教材研究に役立てたりしている。また、研修講座の前後や昼の休憩時間に来館者が足を運ぶ姿も見られた。

ビオトープ内の水質は農薬等の有害物質が全くなく、自然な状態のため、ミジンコ、ワムシなどの動物性プランクトンの他に、ミカヅキモ、クンショウモ、アオミドロ、イカダモ、ハネケイソウなど、理科の資料集に出てくるプランクトンをたくさん観察することができる。

## 3 教職員への教育支援

### 自主研究会活動

本市では、同じ研究課題を有する教職員が自主的に集まり研究活動を行っている研究グループがいくつかある。年度初めに当センターから募集をかけ、応募し登録した研究グループが、金曜日の夜間開館日や土曜日の開館日に当センターを活動の場として、研究活動を行っている。

各自主研究会の活動については、平成 31 年 2 月に実施した、姫路きょういくメッセにおいてパネル展示で紹介した。また、「姫路市図画工作科 自主研究会」「食に関する指導 自主研究会」が、メッセ期間中に「学校教育体験ワークショップ」を開催した。ワークショップには、就学前の親子連れもたくさん参加し、日頃の活動の成果を広く発信することができた。

今後も、このような教職員の自主的な研究活動を支援し、本市の教育力向上につなげていきたい。

### 【本年度登録の自主研究会】

新算数教育	小学校社会科
特別活動	英語・外国語活動
幼稚園教育	姫路市図画工作科
体育科	食に関する指導
生き生き学校保健	授業のユニバーサルデザイン
特別支援教育	生活総合

## 【教育研究員制度】

### 1 概要

教育研究員制度は、1955年に始まり、以来64年間にわたり、269にもおよぶ研究を重ね、各時代の教育課題解決に向けた研究を行い、学校園の教育実践改善に役立ててきた。センター開設後は従来の目標に加え、教育行政における施策立案の基礎資料にすることを目指し、研究活動を行っている。

研究は国や県の動向、本市の教育方針を踏まえ、学校園管理職の代表や教育委員会事務局学校教育部各課の意見等を参考にテーマ設定をし、2年間実証的研究を行っている。研究成果は、学校園における教育実践の改善に役立てるとともに、本市における教育政策を充実させるための基礎資料として活用している。

教育研究員は、それぞれの研究班で、毎週1回センターに集まり、研究班のテーマに沿って研究活動を行っている。センターの指導主事も各研究班に所属し、共に研究活動に取り組んでいる。

研究活動として、センターでの活動に加え、先進地を視察したり、全国各地の研究会に参加したりすることで優れた実践や最新の動向に触れるとともに、研究授業にも積極的に取り組むことで研究を深めている。

## 2 今年度の教育研究班

今年度は4つの教育研究班がそれぞれの研究テーマに沿って研究を進めた。2年目の研究班はこれまでの取組と研究成果について、兵庫県内教育研究所連盟研究発表大会、姫路市教育情報交流展「姫路きょういくメッセ」教育研究発表等において、研究成果を発表した。

### 【平成30・令和元年度 教育研究班】

	研究テーマ
プログラミング教育	Himeji のプログラミング教育 ～考えの組み立てや改善が「見える」授業を通して～
道徳科	児童生徒が考えたいくなる楽しい道徳授業づくりを目指して ーゴールイメージ(評価)から考える授業づくりー

### 【令和元・2年度 教育研究班】

	研究テーマ
外国語教育	自然につながるスモールトーク ～つい英語で話したくなる子供を目指して～
若手教員研修	メンターチームを活用した OJT による若手育成研修の創造